

芸西村 医療救護行動計画(目指す姿)



2 住民参加型 芸西村 医療救護行動計画の概要

誰もが協力できる「新たな医療救護行動計画」の策定 芸西村



従前: 役場を中心とした医療救護計画を作成



1 南海トラフ地震の発生で起こり得る安芸支部管内の状況

大きな揺れ、家屋の倒壊、ライフライン停止、津波による浸水、火災、道路網、通信網の寸断による孤立化、多数の死傷者・負傷者・行方不明者、医療資源不足

災害医療対策安芸支部会議で対策について検討

負傷者の発生



被災状況や交通網の寸断等により、必ずしも指定されている医療救護所等で主体的な医療活動が行えるかは未確定です。このため、従前からの医療救護活動に加え、「地域の医療施設」(LMF; local medical facilities)や地域住民による応急手当・患者搬送の協力体制を整備することで、速やかに患者搬送や初期治療(応急手当)の実施を目指します。

また、各医療救護所、各LMFと災害対策本部との画一的な情報連絡手段を構築し、必要な情報や資源の提供及び後方搬送が素早く行える体制を目指します。

救護病院、医療救護所 + 地域の医療施設LMF - 地域住民の協力!!



住民参加型 配備計画

